

仮設住宅などでのディアコニア報告書

2016年8月15日 Café de FUKUSHIMA 石川和宏

*報告期間:2016年7月17日(日)~7月29日(金)(2016年第7次)

◇7月17日(日)礼拝後 横浜発 荷物搬入

◇7月18日(月)買物 仕込み

【1】飯館村自治会(南相馬市原町区・飯館村民) 7月19日(火)

・全村避難の飯館村民で、南相馬市に避難し、みなし仮設などに住んでおられる方々が対象。

その方々の自治会(会長北原昇さん)からの招請で、3回目の開催
飯館村から南相馬市に避難している方は415人(198世帯)いる(飯館村2016.6.1)。



・案内のチラシ(200部)は村役場から各世帯に発送して頂いている。

・皆さんに提供したのは、腹話術・きみまるライブ(DVD)上映・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)、アロマセラピー

・会場は、南相馬市原町区の石神生涯学習センター(サマリタンハウスから高速道路経由で46km、45分)。設備は古いが広く、職員の方も親切でとても使いやすい。

・支援者は、遠藤茂雄兄 遠藤清子姉(アロマセラピー)(大和カルバリーチャペル)
佐々木節子姉(シンガポール在住) 石川和宏 石川千鶴子



支援の結果

・支援者を除く参加者35名(男性8名)

・ご飯18カップ 豚汁20リットル

・アロマセラピー(ほぼ全員)□順番が回らず、「次回の予約」をされた方もおられた。

皆さまからお聴きしたこと

・家は地震で壊れた。建て直さないと飯館に帰る家はない。

(皆さん村で旧知の方々。久しぶりの再会で話に花が咲き、なかなかその輪に入れなかった。)



◇7月26日開催の小高東町復興住宅(自治会)会場の下見と打合せ

【2】松川第1仮設住宅(福島市・飯館村民) 7月20日(水)

・全員が飯館村民 飯館村から福島市の仮設に避難している原発被災者の方々

・居住者は、118戸建設で101戸在住 飯館村の仮設(合計9ヶ所)では3番目の大きさ

・仮設住宅は、JR松川駅に近い工業団地の中にある。サマリタンハウスから高速道路東北道経由で92km、1時間50分

- ・皆さんに提供したのは、腹話術・きみまろライブ(DVD)上映・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)、アロマセラピー・庖丁研ぎ
- ・支援者は、遠藤茂雄兄(庖丁研ぎ) 遠藤清子姉(アロマセラピー) 佐々木節子姉 石川和宏 石川千鶴子

支援の結果

- ・支援者を除く参加者 36 名(男性 8 名) 屋外のベンチで食事に参加された方もおられた。(写真)
- ・ご飯 27 カップ 豚汁 20 リットル
- ・アロマセラピー(ほぼ全員)
- ・庖丁研ぎ 13 世帯 13 本



皆さまからお聴きしたこと

- ・来年 3 月に避難指示が解除になる。
- ・飯館村外に復興住宅(*)が出来、そこに移った人も何人かいる。
*原子力災害により避難指示を受けている人向けに福島県が整備する復興公営住宅は4890戸。飯館村民向けの建設場所は、南相馬市上町(180 戸)・福島市川俣町(80 戸)など
- ・飯館村内に小学校も出来るが、入る生徒は少ない。「少人数教育で成績が上がる」らしい。(*)
*「福島・飯館村学校・幼稚園の29年4月再開、保護者ら3年以上延期要望」(産経新聞 2016.1.8)
<http://www.sankei.com/region/news/160108/rgn1601080052-n1.html>
- ・解除になったら村に戻り店を出す。村の復興に役立ちたい。(仮設住宅内にある食堂の店主)



【3】7月21日(木)南相馬市社協主催「ニコニコ元気塾」(南相馬市鹿島区・南相馬市民)

- ・社協の要請で協力(支援)している高齢者の集会で、今回から会場が南相馬市高齢者等サポートセンター「希望」(*)になった。7回目の支援。

*指定通所介護事業所南相馬市社会福祉協議会あすなろデイサービスセンター

- ・南相馬市鹿島区の仮設住宅が集中する地区に建てられた仮設の施設である。実際に仮設住宅から参加された方もいる。
- ・毎週火・水・木・土に同じような催しがあり、こちらへ協力も要請された。日程が合えば支援させて頂く。
- ・皆さんに提供したのは、腹話術・日本昔話、笑点大博覧会(DVD)上映・特大風船遊び・謎々・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)・水出しアイスコーヒー・庖丁研ぎ。また、これまで元気塾で撮影した画像を大スクリーンでお見せした。喜んでいただけた。



- ・支援者は、佐々木節子姉 石川和宏 石川千鶴子

支援の結果

- ・支援者を除く参加者 32 名(男性3人)
- ・豚汁 20 リットル
- 庖丁研ぎ 4 本(センターの調理室分)

皆さんからお聞きしたこと

- ・この地域は、人口が減った。特に子供が居る家庭がここを離れ、年寄りの多い地域になった。
- ・施設で働く若い人も少なくなった。
- ・小高区から避難している人の中には、ここ(鹿島区)に家を建てて定住する人もいるが、人口増という程ではない。



◇7月22日(金) 買い出し・仕込み

【4】7月23日(土) 狐田仮設住宅(三春町・葛尾村民)

- ・葛尾村(全村避難)からの避難者の内、行政区「葛尾地区」と「野行地区」の出身者が住む仮設住宅。葛尾村役場三春出張所の仲介。2回目の訪問。葛尾村の野行地区は、20 km圏内で、全域が帰還困難区域
- ・仮設住宅は、建設戸数 55 戸で現在済んでいるのは 20 世帯。昨年 10 月以来2回目の訪問だが、前は 48 世帯入居中だったので、居住者は半減した。
- ・サマリタンハウスからは、高速道路東北道・常磐道経由で 131 km、2 時間 10 分。(結果としては 4 時間掛けて 4 名の被災者にお会いしたことになるが、これもディアコニアの一面である。)
- ・皆さんに提供したのは、腹話術・きみまるライブ(DVD)上映・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)・水出しアイスコーヒー・庖丁研ぎ
- ・支援者は、石川和宏 石川千鶴子
- ・この仮設住宅の管理人・松本民子さんは、村の婦人会長でもある。

支援の結果

- ・支援者を除く参加者4名(全員女性)
- ・ご飯 9 カップ 豚汁 10 リットル
- 庖丁研ぎ 6 世帯 15 本

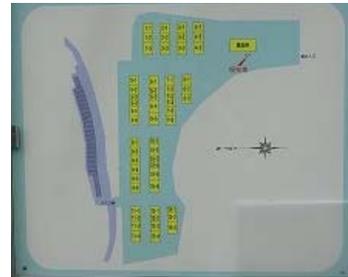
皆さまからお聴きしたこと

- ・村に帰ることを決めた。息子は仕事の関係で一緒には帰れない。
- ・村では一人暮らしになる。息子が時々様子を見に来ると言っている。
- ・帰還困難区域の人は、三春町にある復興住宅に移った人も多い。
- ・家の外回りの修理は済んだ。中のリフォームはこれからで、しばらく時間が掛かる。
- ・村の避難指示は、6 月(12 日)に解除になったが、未だ半分以上は仮設に居る。
- ・井戸を掘った。(飲み水のため)
- ・家の周りには、フレコンバックがたくさんある。ホットスポットもある。
- ・恵下越(エゲノコシ・三春町)に 120 戸の復興住宅が出来た。色々な部



落の人が入居する。

- ・集会所に来る人は減った。
- ・葛尾の川原はヨシが生えて様子が変わってしまった。以前は村民がみんなで手入れしていたが。
- ・田んぼは柳の林になった。
- ・帰っても病院がない。
- ・事故前の買物は、小さい買物は石井食堂で出来た。浪江町・郡山市などに出掛けていた。浪江はもう行けない。
- ・これから家を壊す。
- ・息子は村外に家を建てた。
- ・ガラス窓を破られ、大工道具を盗まれた。元々外泊するときでも鍵は掛けない村だった。
- ・孫たちは、船曳に家を建てた。放射能があるので葛尾には住めない。村で仕事をしている。
- ・復興住宅は、車がないと住めない。
- ・村では、葉タバコ栽培と稲作をしていた。先祖に貰った田畑は、山のようになくなってしまい、なくなしてしまった。



◇7月24日(日)(教会礼拝)買い出し・仕込み

【5】7月25日(月)小田部仮設住宅(本宮市・浪江町民)

- ・浪江町から本宮市に避難している方々の仮設住宅で、昨年9月に続き2回目の訪問。
- ・42戸建設で現在の居住者は20戸
- ・仮設住宅は、JR 本宮駅の東数kmの田園地帯にある。サマリタンハウスから高速道路東北道二本松IC経由で107km、1時間55分。二本松ICからは20分程度。
- ・皆さんに提供したのは、きみまるライブ(DVD)上映・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)水出しアイスコーヒー・庖丁研ぎ
- ・支援者は、石川和宏



支援の結果

- ・支援者を除く参加者13名(男性4人)
- ・昨年と比較し、入居者は数戸減ったが参加者数は同じだった。
- ・ご飯9カップ 豚汁10リットル
- ・庖丁研ぎ9世帯12本

皆さまからお聴きしたこと

- ・農業をしていた。もう農業は出来ないなので、農機具は一部を除き中古屋に全部売った。
- ・今の浪江にはイノブタが多い。

- ・牛を飼っていた。
- ・農業用水は、津島の大柿ダム(*)から引く。今3回目の米の試験栽培をしている。放射能は大丈夫だと言われているが、その米を食べる人はいない。

*IAEA=国際原子力機関は、原発から16キロ離れた浪江町にある大柿ダムの管理事務所で、3月20日午後2時31分に1時間当たり83マイクロシーベルトを観測した。(2011.3.22 NHK NEWS WEB)

- ・農地の除染は、汚染された表土を5~20 cmカットし、代わりに山砂を入れる。いい耕作地は表面から1 cm作るのに5年掛かる。肥料(堆肥)を一反(990 m²)に2トン入れが、牛がいないので堆肥も入手できない。

・除染しても線量が下がらないところは2次除染をしている。結局これを順繰りにすることになる。

- ・浪江では川魚や山菜が採れ、うまかった。今はダメだ。
- ・避難区域の線引きは、行政の線引きなので入り組んでいる。同じような線量でも大熊町・双葉町などの立地自治体と賠償金が全く違う。ADR(原子力損害賠償紛争解決)では低額すぎる。



- ・月に2~3回帰っているが、浪江町の様子は全然替わっていない。

【6】7月26日(火) 小高東町団地災害公営住宅(復興住宅)(南相馬市小高区)

・小高東町団地は、原発事故による避難区域では初の災害公営住宅で、2DKの平屋14戸と、3DKの2階建て6戸がある。南相馬市小高区にあり、7月12日の同地区の避難指示解除に伴い入居が開始された。初訪問。

・小高駅から徒歩2~3分くらいの好立地にある。

・以前から支援していた仮設住宅の自治会長さんが、ここに入居された。随分前から「避難指示解除になったら復興住宅のイベントに来てください」と要請されており、今回実現した。この団地での最初のイベントであり、南相馬市小高区役所の課長さんが挨拶に来られた。

・皆さんに提供したのは、きみまろライブ(DVD)上映・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)・水出しアイスコーヒー・庖丁研ぎ

・この復興住宅団地の現時点での入居者は、20戸中の12戸。子供はいない。

・支援者は、石川和宏

・集会後に自治会長さんに案内され、小高区の社協に出向き挨拶をし、今後の協力(連携)について話し合った。



支援の結果

・支援者を除く参加者 13名(男性4人)

・ご飯9カップ 豚汁10リットル

・庖丁研ぎ7世帯7本

・地域(団地)の集会としても最初のことであり、地域社会の再建のお手伝いが少し出来た。

皆さまからお聴きしたこと

・事故後に避難した体育館で知り合いになった人に、今ここで再会した。

・この復興住宅は、平成24年(2012年)に抽選があり当たった。

・8畳のLDK、6畳、4.5畳の3部屋がある。

- ・賠償金は2018年3月まで出る。
- ・解除後15日以内に入居するように言われているが、入居者は、未だ半分くらい。抽選から何年も経っているので事情が変わった人もいると思う。
- ・新聞配達がないので困る。(役場の方は、「努力している」と答えていた。)
- ・新聞は、「売り出しの広告」「テレビ番組」「悔やみ」を知るのに大切な情報源だ。
- ・母親は、幾つかの病院に通っている。通院が大変になるので、ここに連れてくることが出来ない。



小高区民の帰還について

- ・南相馬市には、帰還困難区域・居住制限区域・避難指示解除準備区域の3つの区分の全部があった。今回解除になった対象者は12,740人(原子力被災者生活支援チーム)。
- 小高区民は、放射線量でなく原発から20km圏内という線引きによる避難指示対象が多い。海岸に近く比較的人口の多い地域は、原発爆発で飛散した放射能プルーム(放射能雲)の主流・北西方向からは海側に少しずれるので、線量は比較的低い。
- ・区民アンケートの結果を見ると、帰還しない理由に「原発事故の未収束」を挙げる方が多い。この方々は、5年余に及ぶ避難生活の辛酸を味わった人々で、今の線量もさることながら、20km圏内という原発からの近さが、再度の放射能飛散を恐れ、帰還しない選択をしていると推察できる。
- ・サマリタンハウスから小高区(*)に行くには、常磐高速道路を原町ICで降り、旧6号線など一般道を通るが、道路沿いなど除染作業の真っ最中である。

*南相馬市によると、解除された地域に7月1日時点で住民登録していた1万807人のうち、帰還を届け出たのは321人(7月28日時点)。また、小高区で避難指示解除後に再開した業者は5事業所にとどまり、食料品を扱う店はまだ再開していない。(読売新聞 地方版 2016.8.11)

- ・役場の方は、「郵便配達の状態から小高に戻ったのは、二重生活者を含めて300戸くらい。」と語っておられた。
- ・被災者支援の立場からして、避難指示解除の早い遅いを論じることは避けるが、生活圏の除染が終わっていない所に帰される住民は、気の毒に思う。小高区だけでなく、他の地区も同じだが、帰還する人の数が少ないのは、不思議なことではない。
- ・特に子供のいる家庭は、戻らない。子供のいない地域(社会)は、持続しない。原発事故もたらす結果の厳しさを示す一面である。

◇7月27日(水) 仕込み

【7】7月28日(木) 寺内塚合第2仮設住宅(南相馬市・小高区民)

・南相馬市小高区の方々仮設住宅で、3回目の訪問(今回は2016年6月) 社協経由で仮設住宅自治会(井島会長)からの要請があり訪問(開催)した。

・172戸建設で160世帯在住している。

・奉仕者は石川和宏 皆さんに手伝って頂き、奉仕者が一人でも無事開催することができた。

・皆さんに提供したのは、きみまろライブ(DVD)上映・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)水出しアイスコーヒー・庖丁研ぎ

・この仮設は、自治会長さん始め皆さんが熱心に住民の交流をし、引き籠もり防止なども考えておられる。こういう仮設は、多くはない。できる限り協力したい。

・米国教会の夏期学校から届く飲み水の提供方法を相談した。

・また、秋に「芋煮会」を開き住民の交流をしたいと計画されているので、協力させて頂くことにした。



支援の結果

・支援者を除く参加者 34名(男性6名)

・庖丁研ぎ 12世帯 17本

・ご飯 23カップ 豚汁 20リットル

皆さまからお聴きしたこと

・小高の家は、これから壊すことにした。整地して家を建てるが、かなり時間が掛かる。

・以前、家族が支援に来た医者から肝臓がんではないかと言われ、見てもらったらその通りで有り難かった。

・この仮設は入居者数が全く変わっていない。他県に避難した人などが他から移ってくる。



◇7月29日(金)横浜戻り

【8】まとめ

・今回は、いつもより少し長い13日間の現地滞在・支援になった。戻る日に梅雨明けになるという幸運もあり、予定通りの被災者支援ができた。車の走行距離は2,000キロを超えた。

・今回、南相馬市(小高区)・浪江町・飯舘村・葛尾村からの避難者を対象に、7ヶ所・167名(男性33名)・庖丁研ぎ49世帯分68本の支援をした。

・今回は、「相馬野馬追」と日程が重なった。相馬中村藩は、我々が支援する地域と重なる。今年のビデオ(南相馬市制作)を開会前に上映したが、千年余の歴史があるということで、地元の方々の愛着は相当深く、心の拠り所

になっていると感じた。ここで歌われる民謡「相馬流れ山」は、多くの方が「結婚式で歌われた歌だ」と語っていた。

- ・南相馬市小高区は、7月12日に避難指示解除になり、区内にある復興住宅では初めてのイベントになった。「避難指示解除とは…」 「復興住宅とは…」など、被災者のその後を知る貴重な経験をした。
- ・小高区の社会福祉協議会と今後の支援について協議し、先方からの協力要請もあった。新しい支援ルートになる。

・今回は大和カルバリーチャペルの遠藤兄姉、シンガポール在住の佐々木姉が応援に駆けつけてくださった。その分私たちは楽をさせて頂いた。遠藤姉はプロのアロマセラピストであり、ほぼ参加者全員に施術し、皆さんに感謝されていた。既に次回の予約をして帰られる被災者の方もおられた。佐々木姉は、ドライマンゴーをたくさん持参していただき、これも皆さんに珍しがられ喜ばれていた。

・イベントに参加された皆さんに、撮影した写真を後日差し上げた。仮設暮らしでは自分たちの写真を手にする機会が少ないのかも知れない。お礼の電話をたくさん頂いている。

・改革派中部中会の皆さんからは、手作りのクッキーをたくさん頂いた。港南台キリスト教会の皆さんからは、お菓子や漬物を、拙宅お向かいの杉森さんからは漬物や手作りの珍味を頂いた。どこでもこれらの来歴を説明し、「ここにはいない支援者の存在」をお知らせし、皆様と連帯していることを覚えて頂いた。



・期間中に米国改革派教会 Vacation Bible School (VBS)の子供たちから、被災者の飲み水のためにと、1,100ドル余りの献金の申し出を頂き、既に配布先や配布方法を決め、次回(8月)被災者の皆さんにお届けする。仮設住宅によっては、「水は、5年間仮設に住んで1度も貰ったことがない」という所もある。子供たちのメッセージや写真を添えて贈る。

・また、献金を頂いたり、福島県への補助金申請が受理されたりもした。Café de FUKUSHIMA の働きが認知され、支えられていることを神に感謝したい。これからも「被災者に同情し共生する」という唯一の目的を果たしていきたい。

・ホームページを開設しました。 <http://311fukushima.org> です。「Café de FUKUSHIMA」「サマリタンハウス」でも検索できます。被災地で伺ったこと(傾聴の記録)、支援スケジュールなどご覧頂けます。

支援予定:8月 (8/19 出発 8/31 戻り)

- ◇8/22(月)松川第2設住宅(福島市・飯館村民)
- ◇8/23(火)杉内多目的運動広場(二本松市・浪江町民)
- ◇8/24(水)斎藤里内仮設住宅(三春町・葛尾村民)
- ◇8/26(金)南一丁目仮設住宅(郡山市・川内村民)
- ◇8/27(土)若宮前・稲川原仮設住宅(郡山市・川内村民)
- ◇8/29(月)寺内塚合第2仮設住宅(南相馬市・小高区民)
- ◇8/30(火)岳下仮設住宅(二本松市・浪江町民)

支援予定:9月 (9/18 出発 9/28 戻りの予定) (決定分)

- ◇9/20(火)飯館村自治会(南相馬市・飯館村民)
- ◇9/23(金)寺内塚合第2仮設住宅(南相馬市・小高区民) 名古屋岩の上教会と合同
- ◇9/24(土)(未定) 名古屋岩の上教会と合同

支援予定:10月 (10/16 出発 10/26 戻りの予定) (決定分)

- ◇10/20 寺内塚合第2仮設住宅(自治会行事(芋煮会)協賛)